

天使

PER CARITATEM
AD VERITATEM

vol.36 March 2024

T E N S H I C O L L E G E

看護学専攻博士後期課程設置の目的

大学院看護栄養学研究科長 教授 日沼 千尋



天使大学は看護学科と栄養学科からなる看護栄養学部、大学院看護栄養学専攻科および専門職大学院である助産研究科をもち、看護師・管理栄養士、専門看護師、保健師、助産師という専門的人材の育成に歴史的に深く関わってきました。

近年の少子高齢化、国際化、IT化などの社会の変化に伴い、とりわけ少子高齢化が著しく進展している北海道においては、人々の健康問題を解決し、豊かな生活への支援を創造する人材の育成が急務です。大学院は学術研究を推進するとともに、研究者、教育者の養成および高度な専門的実践能力を有する人材を養成し、地域の健康生活の向上に資する役割があります。

天使大学大学院看護栄養学研究科は、建学の精神である「愛をとおして真理へ」に則り、看護学と栄養学の理論と応用に基づく独創的研究により深奥を究め、人類の健康・福祉に貢献することを目的としています。

看護学専攻博士前期課程では修了時には修士（看護学）の学位を取得することができ、高度実践看護師コースとしてホスピス緩和ケア看護学領域、老年看護CNS領域、精神看護CNS領域、在宅看護CNS領域、および保健師コースがあります。また、修士論文コースでは公衆衛生看護学、精神看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学の各領域において、研究を通して看護学の学びを深めます。

さらに看護学専攻においては、2024年度より博士後期課程が開設され、修了した方には博士（看護学）の学位が授与されます。地域の健康な生活に貢献する看護学の研究者、指導者、看護専門職者の育成に期待が高まっております。

栄養管理学専攻には修士（栄養学）の学位を得るこ

とのできる博士前期課程と、博士後期課程があり、後期課程修了した方には博士（栄養学）の学位が授与されます。

とくに、博士前期課程では学部で学んだ事柄についてより深く学ぶことで、人々の健康に貢献する高度専門職業人となる方向性をより明確にしています。

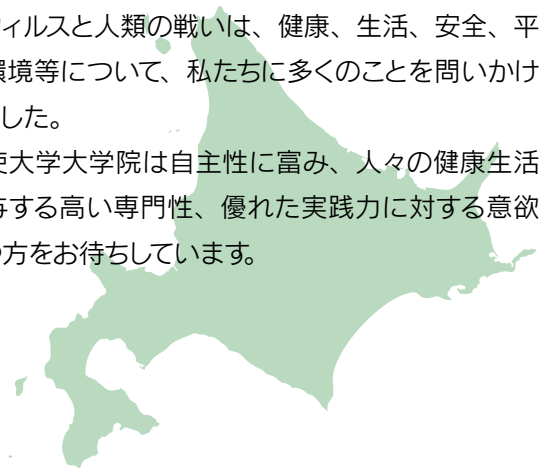
両専攻とも、働きながら学ぶことのできる長期履修の制度も設けています。

大学院では科学的思考に基づく問題解決の能力を向上させることにより、よりいっそう、高度な専門知識・技術、そしてまさに科学的思考方法を涵養することができますと思われる。

大学院での研究の第一歩は指導教員とともに選ぶ研究テーマの決定でしょう。現在まで明らかになっていない事象に対する新しい知見を得ることができる、そしてそれが社会のニーズに合致しているとき、人類への貢献につながり、大きな注目を浴びます。

今、わが国はこれまでに経験したことのない人口変動と社会の変化、自然環境の変化にさらされており、これらを科学的な思考と研究能力に基づき解決する想像性のある人材が強く求められております。新型コロナウイルスと人類の戦いは、健康、生活、安全、平和、環境等について、私たちに多くのことを問いかけてきました。

天使大学大学院は自主性に富み、人々の健康生活に寄与する高い専門性、優れた実践力に対する意欲をもつ方をお待ちしています。



学びの振り返り

「期待と不安の一年間」～仲間と共に成長をする～

看護学科1年 岩男 波音



私が中学三年生の冬に新型コロナウイルスが流行し、高校の三年間は全てコロナ禍での制限のある学校生活を強いられました。大学でも、新型コロナウイルスによって実習に行けないのではないかとといった不安がある中、どんなことを学ぶのだろうという期待も胸に入りました。

そして、昨年5月新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたことで、通常通りとは言いませんが、施設実習・病院実習を実施することが可能になりました。普段は患者としてしか訪れない病院ですが、この実習を通して医療職側の立場を経験することができました。

講義では、高校とはレベルの違う難易度の高い内容が多く、授業についていけるだろうかと何度も不安になりましたが、友人と助け合いながら学習に取り組むことで、お互いに理解を深めながら知識を身

に付けることができました。前期のリネン交換のテスト、後期のバイタルサイン測定のテストでは積極的に練習に取り組み、友人とだけではなく同じ学年の看護学科の学生にも恐れず声をかけ練習に誘い、お互いの技術に関してフィードバックし合いながら、皆で技術を向上させることができました。

入学する前は何も知らなかった私ですが、この1年間で基礎的な看護技術、知識を学べました。技術や知識だけでなく、人との関わり方や積極性も成長させることができたと感じます。これからも仲間を大事にしなが、お互いに成長していくことが目標です。



基礎看護技術論の1コマ

「自分を見つめ直した1年間」

栄養学科1年 山川 桃花



天使大学に入学してから約1年が経ちますが、とてもあっという間でした。私は地元が離れているので大学入学に伴い一人暮らしも始めたため、最初は新しい環境に慣れるのに精一杯でした。また、高校からの友人よりも、はじめましての人の方が圧倒的に多いので仲良くなれるかなという不安もありました。

ですが、今年度は感染症の状況が少し落ち着き、対面授業が多かったり、天使祭、体育祭といった行事を開催できたことで、クラスの人との会話が自然と増え、気づけば仲良くなって友達になっていました。

大学に入ってから授業は、1年生ということもあり、専門的な知識を学習するための基礎知識を身につける授業が多かったと思います。とはいえ、形態機能学や基礎栄養学がなかでも特に難しく、苦戦しました。覚えることが本当に多く、その大量の知識を自分のものにするには授業毎の復習が大切だと身をもって感じました。1年生の時は、授業毎の復習を行う時間を積極的に作ることが出来ず、溜め込んでしまうことが多かったため、毎日机に向かう習

慣を付けたいと思いました。

例年通りが通用しなくなった4年前から状況も変わり、あの頃のような日常が取り戻されてきていて、本当に嬉しかったし、幸せだなと感じた1年間でした。

2年次からは、より専門的に学ぶことが増えるため、それまでに基礎知識をしっかりと固め、理想とする管理栄養士像に近づけるよう、これからも頑張っていきたいと思います。



調理学実習の1コマ

これまでの学修や経験が統合されたことを実感した1年

～自分の成長と新たな課題を見据えて～

助産研究科助産基礎分野2年 渡邊 里和



この一年は、春の独立助産実習から始まり、就職活動や特別統合課題研究を並行しながら、夏には選択科目の国際助産学実習で海外に研修に行き、秋には統合実習Ⅱで学生生活最後の実習を締めくくりました。多くの課題が同時並行で進み、とても大変でしたが、11月中旬以降は、怒濤だったカリキュラムが一旦落ち着き、国家試験勉強に取り組んでいます。その中で、この一年を振り返り、特に成長したと感じた場面は、最後の統合実習Ⅱを行った時でした。統合実習Ⅱでは産褥期の母子を3組受け持たせていただきました。これまでの全ての学習や実習経験を踏まえ、自分から主体的に思考し、深い対象理解を通して母子の方々の思いを大切にしながら、根拠や裏付けを大事にした助産ケアを提供することができました。実習を行う度にまだまだ自分に足りないところがたくさん見付き、助産ケアの奥深さ

や難しさを感じましたが、その反面、自分の観察眼や、対象者との関わり方など、少しずつではありますが自分の助産観が磨かれていることを実感しました。実習の中での、母子とご家族の方々と助産師の方々と素敵な出会いに感謝し、そこで学ばせていただいたことを忘れずに今後も成長していきたいです。修了後は、助産師として病棟で母子の方々をサポートするうえで、まず1番に、母子や女性の思いを大切に、確かな知識と技術で母子の安全・安楽を守ることができる助産師になりたいと思います。



国際助産学実習～ニュージーランドにて～

「仲間との協力の必要性を感じた臨地実習」

看護学専攻保健師コース1年 田中 志穂



大学院保健師コースに入学し、前期から授業では毎日のディスカッションやグループワークを通して、自身とメンバーの考えを共有し日々学びを深めています。

後期の10月11日には合計約4週間の現地実習がありました。今回私たちは新ひだか町と日高町に実習に行きました。実習地に行くにあたり事前に地域アセスメントを行い、それぞれの町の健康課題を様々な資料やデータから分析しました。実際に現地では保健師が実施している健診に参加することで、他職種の意見や参加している母親の声を聴き、どのようなニーズがあるのかをメンバーと共に考えました。また私たちは、「健康学習支援」として、実際に地域の方に健康に関する講話を開きました。認知症カフェや地域の会館にいる人に必要な情報は何かを考え、日々の活動から健康について考えることの重要性を意識した取り組みをしました。さらに実習を通して地域の課題を再検討し保健師の視点で「事業計画書」を作成し必要な支援を提案しました。事業名や実施する目的や目標、予算を考え、最終的に得られる成果を考える一連の流れをメンバーと検討したことで、他者が納得できるプレゼンテーション能力の必要性を学びました。

この長期の実習ではメンバーとの協力がとても大き

く、それぞれ持っているアイデアを発言することでより学びを深められました。疲労が溜まってきたときには励まし合い、実習の合間の休日には地域にある温泉に行くことや特産品を食べるなど息抜きをしながら実習を楽しむことで、地区踏査となり地域を知ることに繋がる良い経験となりました。

また家族看護継続実習では乳児期のお子さんをもつご家族の訪問を行いました。地域で育児をしているご家族のもとへ訪問し、家族全体の健康を意識してかわりながらどのように支援できるのか、保健師の役割について身をもって実感した貴重な経験をしました。

現在は課題研究のテーマをこれまでの経験や関心等から検討し、メンバーそれぞれ悩み迷いながらも進めています。今後も大学院での学びを活かし、保健師になるためにより一層学業や研究に励んでいきたいと思っています。



日高地方の臨地実習にて

専門職への誓い～看護学科～

戴帽式

看護師を目指すことの自覚と決意



看護学科2年 坂元 夕莉

11月21日に、看護師になるための大きな一歩となる戴帽式が開催されました。戴帽式は1951年から続く本学の伝統行事であり、ナースキャップの授与、キャンドルサービス、誓いの言葉などが行われました。去年、リモートで2年生の戴帽式を見ていた時に、戴帽式とはどのようなものかを知り、戴帽式に出るということは自分が看護師になることを決意することのように感じていました。1年生の私から見た戴帽式での2年生はとても大人に見えていましたが、日々の授業や演習、病院実習、施設実習など初めての経験に戸惑いながらも、目の前の課題に精一杯取り組んでいるうちに、あっという間に自分の番が来たように感じています。準備をしているときは、大切な

式を目の前にした不安もありましたが、歴史ある戴帽式に参加し、看護師の象徴であるナースキャップを授かったことで、夢である看護師に近づくことができたと感じました。多くの課題や演習、実習を乗り越え、ここまで来ることができたということを実感し、これまで支えてくれた仲間や家族、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。また、看護師になるということに改めて自覚し、身が引き締まりました。看護師になるためには、知識も技術もまだ学ばなければならないことがたくさんありますが、今後は、看護師としての理想の姿について追求し、理想とする看護師に近づくことができるように、向上心を持って学んでいきたいと思っています。

看護の道を進むことへの覚悟



看護学科2年 林 真子

私は、昨年の11月21日に行われた戴帽式に参加しました。新型コロナウイルスの規制が少しずつ緩和され、戴帽の儀や誓いの言葉の宣誓、合唱などを保護者の方々にも見守られながら行うことができました。

最初は、戴帽式はナースキャップをもらうというイメージだけで、どのような行事なのかは知らなかったのですが、練習や準備を進めていくうちに、改めて自分は看護の道を進んでいくのかを自分に問い、覚悟を決める、また、看護職への意識を高める大切な行事であるのだと感じました。実際に、「助産師になりたい。」という漠然とした将来の夢だったものが戴帽式を通して、現在の自分を見つめ直すことができた

め、明確な目標となり、自分は助産師になるという覚悟をもつことが出来ました。

戴帽の儀でナースキャップを受け取った際には、吉田礼維子学科長から激励の言葉をいただき、自分の目標である助産師になるために、勉強や実習をより頑張っていこうという気持ちになり、身が引き締まりました。また、キャンドルを灯し、誓いの言葉を宣誓した際には、2年間の学校生活を振り返り、ともに勉強や実習を乗り越えてきた仲間の存在の大切さに改めて気づきました。この気持ちを忘れずこれからも仲間とともに今後の学校生活を学びの多いものにしていきます。



専門職への誓い～栄養学科～

Food and Life Step-up Ceremony

管理栄養士への夢の再確認

私はステップアップセレモニーに参加して管理栄養士への夢を改めて認識することができました。

大学受験の頃は天使大学や管理栄養士について自分から様々な情報を集めていました。受験の際の志望理由書や面接でも自分が将来どうなりたいのか、考える機会が多くあった気がします。ですが、入学してからは目の前の課題や大学生活に気がとられ、何を目標に今頑張っているのか少し見失っていました。その中でステップアップセレモニーがあり、自分が管理栄養士としての将来のためにこの大学に入ったのだと再認識する良い機会になったと思います。4年という長そうであつという間な期間の中盤でこのような機会がありとても良かったです。

式の中ではキリスト教にまつわる部分が多くありま

初心を振り返る

天使大学に入学してから2年が経とうとしています。幸いにも、私たちの学年は新型コロナウイルスの影響をそれほど受けず、多くの友人や先生方に恵まれながら大学生活を送っています。そんな中、今年のステップアップセレモニーが行われました。日々の生活を送る中で、やはり心のどこかに慣れが生じ、将来への決意や周囲への感謝の気持ちが薄れていた時期に開催された行事であったため、初心に返ることができる良い機会でした。

ステップアップセレモニーではキャンドルサービスというプログラムがあります。キャンドルに火が灯っていく様子はとても幻想的で、ロウソクのように周囲を温かく優しく照らすことができる存在になりたいという新たな目標が出来ました。また、周りを見渡すとたくさ

栄養学科2年 荒井 彩希



した。中でもキャンドルサービスでは、「ろうそくは自分の身を削り、周りを明るく照らす。その姿が目指す姿である」と、説明がありました。自分の身よりも他者を生かすという働き方、生き方を目指し、ひとを支えられるような姿になりたいです。

正装に身を包み、入学式以来だった式典ならではの雰囲気がありました。入学した直後はうまく話せなかった友だち、慣れない通学、大学の授業、今では日常となっていることがあの時は不安ばかりな毎日でした。今回、これまでの大学生活を振り返り、入学からの成長を感じることができました。

来年から始まる実習に向けて、より努力していきたいと思っています。

栄養学科2年 高部 瑠々那



んのキャンドルが灯っており、同じ目標を持った素敵な仲間たちに日々支えられていることを実感することが出来ました。

来年にはよいよ学外実習が始まり、本格的に管理栄養士としての準備期間に入ります。今までよりも遥かに悩みや困難が増えると思いますが、そんな時は今回のステップアップセレモニーのように1度立ち止まり、目標を再確認する機会を設けようと思います。また、不自由なく大学生活が送れている現状は決して当たり前ではなく、家族、先生方をはじめとする多くの方々のサポートの上で成り立っていることを肝に銘じ、後悔のない、充実した学生生活になるようかけがえのない仲間とともにこれからも精一杯頑張ります。



天使祭葦の会報告

天使祭 ～実行委員長の立場になって感じたこと～



天使祭実行委員長 栄養学科2年 川口 拓武

天使祭実行委員長という役職につき気が付いたことが2つあります。1つ目は天使祭に向けて数ヶ月準備をしていく中で、何を行うにしてもコミュニケーションをとることが何よりも重要だということです。

芸人についてなど大枠を決める作業は約半年前から進めてきましたが、本格的に内容を詰めていく作業に入ったのは新一年生が入学してからになりました。引き継ぎ資料がほとんどなく、模擬店や装飾、芸人、抽選会の他に初の試みであるキッチンカーや TENSHI LIVE2023、4年ぶりに一般公開をするために健康チェック・栄養体験コーナーの企画を同時並行で進めながら、葦の意見にできるだけ耳を傾けながら

天使祭実行委員に情報共有をしていくというのを限られた1ヶ月程度の期間でやり切らなければならぬということはかなり困難なことだと感じました。

2つ目は大学のカリキュラムの面で少しやりづらさを感じたということです。企画を進めていく中で栄養学科と看護学

科でこまめに集まったりする時間を設けることができなかったことや、4年生の実習が天使祭期間中と重なったり、「情報公開が遅かった」、「実習と重なっていただけだけれど大学最後の学校祭くらいは参加したかった」などの声があげられました。

普段上の立場に立つことがなく、業者でもない素人の人間が計画したという視点から見れば出来る限りのことはやったとは思いますが、それでも自分の力不足を感じる機会となりました。

天使祭実行委員長としての経験を活かし、コミュニケーションを十分にとりみんなの意見を取り得ながら自分の意見も通せるような、当たり前のことを当たり前にならせる人材に成長したいと感じました。

そして、今回の天使祭を開催するにあたって支えてくださった教職員、一般生徒、地域住民の方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

今後とも葦の会をよろしくお願い致します。



天使祭 ～皆さんの協力で成功した経験～



葦の会副会長 栄養学科2年 富士 天音

2022年12月、選挙が終わり葦の会役員が決定してすぐに天使祭の計画を練り始めました。今年はコロナによる規制の緩和もされるだろうとコロナ禍前の天使祭に出来るだけ戻そうと試みましたが、どの程度規制緩和がされるか、一般公開

も本当に出来るのかもわからないまま進めることになり、制限のない天使祭を経験した人がいない上に資料も少なく不安も多くありました。まず昨年行った企画は昨年の天使祭後に行ったアンケートをもとに改善し、今年は何の企画を復活させるのか、新たにどんな企画を行うのかを役員で考えました。

私は昨年に引き続き抽選会を担当し、景品が当たらない人にも楽しんでもらえることを目標に取り組みました。昨年の事後アンケートでは不平等を感じてしまったり景品は自分の欲しいものではなく残念だという意見、男子の好みに合うものがないという意見もあったため、改善法を考えました。そして、今年はBINGO形式に変え、景品は部門で分けて欲しいものが当たるよう工夫をしてみました。目玉となる景品については希望が多かったディズニーランドのチケットも検討しましたが、懸念される部分も多く、有効期限が長く人数制限がなく好きなところへ行ける星野リゾートの宿泊券を用意しました。その他にも要望が多かったヘアアイロンやスチーマー、ヘアブラシを購入したり、コスメへの予算を増やして人気のものを揃えるなど生徒の意見をもとに景品を決めました。しかし、昨年とは全く違う進め方になり、同時ピンゴの際にどうするか、不正防止はどのようにするかなど考えなくてはならない部分も多く大

変でした。改善点はあるものの当日は抽選会担当ではない役員やみなさんのご協力のおかげで無事に終えることが出来ました。当日の様子からはみなさんに楽しんでいただけたと感じ、昨年よりも楽しめたという意見もあり、達成感を得ることが出来ました。

昨年と変えた部分では、模擬店のクラスの予算を増やし食数も増やす他、サークルは2日間行ってもらったり、キッチンカーを呼び、葦の会からは外で販売する店を出すことにしました。キッチンカーも葦の店も初の試みでしたが好評で嬉しかったです。他にも新しいコンテンツとして TENSHI LIVE、フォトコンテストを行い、TENSHI LIVEでは生徒はもちろん一般のお客さんにも楽しんでいただくことができました。

天使祭の企画・運営を通して、限られた時間・予算のなかで行うこと、新しいことを行う難しさを感じましたが、制限がある中でよりよいものにするためにはより多くの人が意見を出し合い、協力することが重要であると学ぶことができ、今年の天使祭は全体的にレベルアップしたコンテンツを用意できたのではないのでしょうか。生徒のみなさんの意見を反映させたい、より多くの人に楽しんでもらえる天使祭にしたいという想いがあったため、みなさんの満足度が昨年よりも高くなっていると嬉しいです。また、無事に開催でき、成功を収めることが出来たのは葦の会役員はもちろん、先生方、天使祭実行委員、生徒の皆さんが協力してくださったおかげです。本当にありがとうございました。今後も皆さんの意見が反映できるよう頑張りますのでご協力お願いいたします。



天使祭 ～不安と緊張のなかで～

葦の会副会長 看護学科2年 齋藤 心愛



天使祭はいかがでしたか？ここの度は、コロナの影響で多くのことが制限されていました。コロナ禍での行事は、数多くの不満があったかと思えます。今年はコロナの制限がなくなり例年通り一般公開を行うことができました。数年ぶりの一般公開ということもあり、私たち葦の会は、ほぼ一からの状態でスタートを切りました。例年行っていた栄養体験、健康チェック、模擬店、サークル発表はもちろん、BINGO形式での抽選会、キッチンカー、大規模なライブなど初の試みも数多くありました。少しでも、みなさまの楽しい思い出として心に残っていれば幸いです。



私は「健康チェック」と「TENSHI Live2023」のコンテンツ責任者を担当させていただきました。

健康チェックは、数年ぶりの開催でした。コロナ禍以前は毎年行っていたそうです。久しぶりの開催でどれくらいお客さんが来てくれるのか、何をしたら気軽に楽しく健康に意識を持ってもらえるか、試行錯誤していました。本番当日まで不安と緊張で胸がいっぱいでしたが、本番当日は予想以上に多くの方が足をこ

んでくださいました。TENSHI Live では、Fly と Wings のサークル発表しか予定がありませんでした。それでは物寂しいと思い、葦の会の役員が知り合いに声を掛ける形で、「KOHAKU」「でかくてまるい。」をはじめとしたバンドの方々や、札幌国際情報高等学校の「SITBand」の方々に出演して頂きました。先生曰く「歴史ある天使大学だが、過去一番大規模な公演」らしいです。大きな問題もなく、無事に終わることができました。

責任者としてのこの経験は、私のなかで貴重なものとなりました。自分の大きな成長を感じています。しかし、反省点も数多くありました。特に TENSHI live は自分の中で一番心残りがあるコンテンツです。この反省点を無駄にしないよう、しっかりと葦の会一年生に引き継ぎ、来年は最高の天使祭を作り上げてもらいたいと思います。来年の天使祭を期待してください。

改めて、天使祭に参加していただいたみなさま、天使祭に協力していただいたみなさま、サポートをしていただいた教職員のみなさま、本当にありがとうございました。

体育祭

～困難を乗り越え良い体験ができました～

体育祭実行委員長 栄養学科2年 岩佐 颯太



今年度の体育祭は数年ぶりの一日開催に加えて東区体育館での開催となり、役員一同張り切って準備をしていました。何度も東区体育館の担当者さんと話し合いを重ね、当日に向けて準備を進めていきました。打ち合わせの段階では問題なく行われる予定でしたが、当日は正直なところあまり想定していたとおりには進みませんでした。創立記念日と開催日が重なってしまっていたことや、インフルエンザの流行や体調不良などの理由で当日欠員者が多く出た分参加していた役員が精いっぱい動いてくれたおかげで、何とか運営をすることができました。普段実習や課題に追われ、忙しい人も多くいる中で開催に協力してくれた体育祭実行委員や葦の会の役員には、非常に感謝しています。

体育祭を終えたことで、仲間を頼ることの重要性を理解することができたと思います。私は準備の段階ではあまり他の役員に仕事を振り分けることができませんでした。そのせいもあり当日自分以外の役員はうまく動けなかったと思います。そんな状況の中役員は指示を求め積極的に動いてくれました。もっと早くから仲間を頼り仕事を振り分けておけばより良い体育祭にできたのではないかと思います。

来年度の体育祭では、自分たちの良いところは参考にしてもらい、悪いところは同じ轍を踏まないようにしより良い体育祭にしてほしいと思います。



2024年4月 学校法人「藤天使学園」となります

カトリック精神に基づく教育を建学の理念として共有する学校法人藤学園と学校法人天使学園は、

2024年4月1日付で法人合併し、学校法人「藤天使学園」となります。

※法人の合併となりますので、藤女子大学と天使大学は現状通り存続します。

それぞれの大学名、キャンパス、学部・学科編成に変更はありません。



卒業生紹介

高齢者に元気な暮らしを

中銀インテグレーション株式会社 管理栄養士 山内 詩織 (栄養学科2019年度卒)



栄養相談リーフレット

現在、私は高齢者向けの分譲マンションで管理栄養士として働いています。

年齢を重ねていくと食事への関心が薄れ、バランスの良い食事を毎日用意することが大変だと感じると思いますが、ここ「中銀ライフケア」

では毎日3食の食事を提供しており、入居者の生活の質をより良いものに行っている点に魅力を感じ、就職を決めました。

主な業務は食堂の献立を作成し、入居者の方々に提供することです。高齢者が対象なので薄味で柔らかい食事を想像するかもしれませんが、病院や施設とは異なり自立した方が入居されているので、だしの風味はしっかり残し、野菜の食感も残して提供しています。「私たちにはまだ歯があるのだから」と入居者の方から言われたことがあります。自分はまだまだ元気!と思



お正月の特別食おせち料理

いながら、食べることを楽しみに毎日を送れることが長生きするために必要なのだと感じています。

入居者の方々を対象とした栄養相

談も行っており、お身体やお食事の

悩みについてお聞きしています。初めは栄養状態を聞き取り、栄養診断、計画、と順番に行っていましたが、実際に求められていることは何を食べたらよいか、何を控えたらよいか、といった簡単なことであることに気が付きました。そこで、話した内容を後日振り返るためのリーフレットを作成したり、塩分量の早見表を渡したり、相談内容を工夫することで「わかりやすかった!」と言ってもらえることが増えました。

大学で学んだことだけが全てではなく、実際に現場で働いてみると様々な持病を患っていたり、考え方や感じ方を持っていたり、対「ヒト」である難しさを実感します。しかし、コロナ禍でイベントが制限されて、食事を唯一の楽しみに思っている方々がいる中で、管理栄養士として健康面の手助けだけでなく、毎日の暮らしを楽しい日常にしてあげたいという思いがあり

ます。今は健常者向けの食事を提供しておりますが、今後は疾病に応じた食事の展開もできたらと考えています。



栄養相談中

つれづれ考

第20回
リレーコラム
本学教職員による

人生の分かれ道

私は某短大看護学科に入学してすぐに自分は看護師に向かないと思ったのですが、入ったばかりのオーケストラサークルが楽しかったので、サークルのために退学を思いとどまり、サークルを続けるために勉強を続けて卒業、病院に就職しました。今自分が天使大学の学生だったら、きっと先生方は眉をひそめていると思います。看護学生としてはいまひとつでしたので、看護の面白さ、楽しさもわからないまま卒業してしまいました。

配属された病棟は新人が私一人で毎日先輩方に集中的にご指導をうける日々。でも次第にもしかして楽しい?と思うようになりました。病に苦しむ患者様なので楽しい状況での出会いではありませんが、様々な年齢、生き方や価値観が違う人と出会うこと

看護学科教授 浅井 さおり

が楽しく、一人ひとり違う方たちを看護する楽しさを感じるようになったのだと思います。入院患者様担当の日は、どんな方が入院されるのか会うのを楽しみに待つようになっていました。3年目になって一緒に働いていた年配の医師にこの話をする機会があった時「そう思えば看護師として一人前だな」と言われ、看護を頑張ろうと思いました。その医師がどんな意味で一人前と言ったのかわかりませんが、自分では病気だけではなく人を見ることがいかに重要だと言ってくれたように思い、嬉しかったのです。

学生時代には思いもなかった展開で今に至っています。こうして振り返ってみると人生の分かれ道のひとつは退学しなかったことで、サークルに入った自分を褒めてあげてもいいかなと思っています。



天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30
TEL.011-741-1051 FAX.011-741-1077

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科・助産研究科(専門職学位課程)

第36号 2024年3月1日発行 天使大学広報委員会

<https://www.tenshi.ac.jp>

